

第1回（仮称）青森県DX推進プラン議事録（サマリー）

日時 令和5年5月10日（水）
14:00～16:00
場所 ウェディングプラザ アラスカ
地下1階 サファイヤ

1 開会

- 全委員出席（12名）

2 委員長及び副委員長選任

- 森 樹男 委員長（弘前大学副理事（社会連携担当）・人文社会学部教授）及び 石井重成副委員長（青森大学社会学部准教授）を選任した。

3 議事

（1）（仮称）青森県DX推進プランの策定及び推進について

- 事務局より「資料2」に基づき説明した。（質疑なし）

（2）意見交換「（仮称）青森県DX推進プランにおける本県のめざす姿について」

- 事務局より「資料3」に基づき説明した。
- 各委員からの主な意見は以下のとおり。
 - どこかに焦点を当て、柱を作ってまとめていくと面白いプランができるのではないかと。
 - 「アジャイル」の視点をもって、ダメ元でやってみる、失敗から学ぶ姿勢を作っていく。
 - 高齢者、障がい者にもできることはたくさんあるので、それをDXで繋いでいく仕組みができると、青森独自のライフスタイルができる。
 - 行政が「アジャイル」の観点を持って変革することで、県全体に広がっていくのではないかと。
 - 青森でフードバリューチェーンを進めていきたい。
 - 子どもたち、教員などをはじめとした教育をDXでどう改善していくかが強く求められている。
 - 変革できる力が青森県にあると、DXに代わる言葉が5年後、10年後に出てきても時代に合わせて変わっていくことができる。
 - デジタルは“見える化”が得意なので、データを県民の心に訴えるように「見せる」ことが大切。そしてそこからいかに行動変容に繋げていくか、が重要。
 - 事業者のDXを進めるためには、身近なところで成功事例を作り出すことが効果的。
 - DXを進めたかどうかという選択によって、20年後は確実に二極化している。
 - DXが目的になってはいけない。DXを使ってスピード、生産性、価値を上げていく。
 - 大人がもっとデジタルに触れること、理解することが必要であり、それをサポートする人材が増えると良い。

4 閉会